

オイル価格と市場変動

オイル価格の変動が激しい。今週の初めには1日の中で40ドル近くの変動があった。これまでも中東での戦争などによる危機の発生でオイル価格が大きく変動したことは何回もあったが、今回一日の変動幅としては過去最大を記録した。それで世界の株式市場も大きく変動した。

この変動を引き起こした直接の要因はトランプ大統領や政権幹部の発言などだ。元々今回の戦争の目的が定まらず、戦争の終結のプランも曖昧なので言動が短期間でコロコロ変わる。その度に市場は振り回される。朝令暮改もいいところだ。マーケットメイキングの金融機関の為替ディーラーの場合はそれでいいが、一国の総司令官がそれでは混乱を招くばかりだ。

昨日はサウジアラビアの国営石油会社サウジアラムコのCEOが、この戦争は長引くほどオイルマーケットに壊滅的な打撃を与え、世界経済にも重大な影響を及ぼすと警告した。まさに短期で終わるか長引くかが大きなポイントで、それにより市場への影響も大きく変わる。

今のところ市場ではオイル価格が1バレル100ドルを超えるかどうかの一つの目安になっているようだ。戦争が短期に終了する見込みの場合は100ドル以下、長期になりそうなら100ドル以上になる。

トランプは、最初1か月足らずで終わると言ったが、既に2週目になるが終結は見えない。市場では長引くほど、インフレ懸念は強まり、長期金利は上層気味に振れる。FEDもBOEもECBも利下げの選択余地が狭まる。

それでもポジションを大きく傾けられないのは、トランプにはTACOがあるからだ。それにトランプの側近が戦争終結のプランを進言したとの報道もあった。7月4日は米国建国250周年の大規模なイベントやセレモニーが予定されている。遅くともこの前には戦争を終結させて歴史的祝賀行事をトランプは取り仕切りたいはずだ。

それに3週間ほどで米中首脳会談もある。中国は昨日1-2月の貿易統計を発表した。輸出が前年同期比20%以上増加し、貿易黒字も拡大した。昨年同様輸出

主導の経済成長構造は変わらない。黒字を相殺するほどの資本収支の赤字がなければ人民元は上昇傾向になるのが普通だ。だが当局は先日人民元売りを抑制するための準備預金を撤廃した。人民元高のペースを緩めるためか、人民元高の必要性がなくなったと判断したためだ。

米中首脳会談を前にこうした措置を講じるのはトランプ関税の脅威を感じていない表れだ。レアアースと言う切り札を持っているからだろうが、それだけではいられないかもしれない。

もし米中首脳会談を契機にイラン戦争が終結に向かうようなら、中国は国際的な地位を一気に上げることになる。トランプを梃子に習近平は大きな政治的勝利を得ることになる。